

体育理論3「古代オリンピック」授業案

対象：中学2年生 40または41名

本時の位置：3時間中の3時間目

授業の目標：①古代オリンピックについて学習し、現在受けつがれていることについて考えること。

②現在のオリンピックと自分たちの生活のあり方について考えられるようになる。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	<p>《古代オリンピックにおけるスタディオン走のスタート体験》</p> <p>① スタート装置を見て、何に使うのか考える。</p> <p>② どのようにして構えるのか考える。</p> <p>③ スタート装置を活用して体験する。</p> <p>④ 優勝者(男女1名ずつ)に月桂樹・オリーブ冠授与</p>	<p>◆古代オリンピックのスタディオン走のスタートを疑似体験することで、古代オリンピックについて考えるきっかけをつくらせる。</p> <p>◆怪我防止に努める。</p> <p>◆各クラス体育係4名の手づくり</p>
展開 I	<p>《古代オリンピックの場所・時期》</p> <p>◆古代オリンピックはいつ・どこで始まったのか</p> <p>◆エケケイリア（聖なる休戦）</p> <p>オリンピックのもともとの意義について考えさせる。</p> <p>ポリス（都市国家）間の争いを収めるために始まった</p> <p>⇒現在に受け継がれる「平和の祭典」の意味</p>	<p>◆前時の学習を思い出させ、近代オリンピックと古代オリンピックの関わりについて考えさせる。</p> <p>◆オリンピックは有形無形さまざまな影響を周囲に与えるが、近代オリンピックが模範とした「古代オリンピック」とはどのようなものだったのか考えさせる。</p>
展開 II	<p>《古代オリンピックの競技》</p> <p>(1)スタート装置(ヒュスプレクス)から学ぶこと</p> <p>◆なぜ、このような装置がつけられたのか考える。</p> <p>⇒全競技者に公正なスタートをさせるため</p> <p>(2)短距離競走 スタディオン走</p> <p>◆なぜ、約200mを1スタディオンとしたのか考える</p> <p>⇒4つの説を紹介</p> <p>(3)他の競技種目の紹介</p> <p>円盤投げ、幅跳び、やり投げなど現在と似た競技、異なる競技など</p>	<p>◆フェアプレーの精神</p> <p>◆各競技種目を簡単に説明しイメージできるようにする。(復元図や写真などの資料)</p> <p>◆古代オリンピックが行われていたギリシャのスタディオンなど、ビデオ映像により、理解を深めさせる。</p> <p>◆オリンピック学習読本を配布し、理解を深めさせる。p.24-27</p>
展開 III	<p>《大会の勝者に与えられたもの》</p> <p>◆古代オリンピックの勝者には植物からなる冠が贈られていたが、それはなぜか考える。</p> <p>⇒優勝者には植物からなる冠が贈られた。その意味を考え、理解する。</p> <p>◆古代オリンピックの勝利の価値を考える。</p>	<p>◆なぜ、植物からなる冠を勝者に贈ったのかを考え、理解させる。</p> <p>◆現在においてそれが受け継がれている場はあるか考えさせる。マラソンでは現在でも優勝者に贈られている大会があることを理解させる。</p>
まとめ	<p>本時の学習を振り返り、学習成果を確認する</p> <p>(1)古代から現代に受け継がれるレガシー</p> <p>①不正防止に対する努力 1200年も続いた理由</p> <p>②オリンピックそのものと選手への賞賛</p> <p>③平和思想</p> <p>平和な社会に貢献するオリンピックムーブメント</p> <p>(2)自分たちでできること、活用できる場を考える</p>	<p>◆古代オリンピックから現在まで受け継がれているものについて理解させる。</p> <p>◆今後の日常生活(学校生活による自治活動の場、学校行事なども含む)に活かせることについて考えさせる。</p>